

Nami-Aru? / Internet

「Save the great white shark～僕はサメを食べない、サメは僕を食べない」

文：ジョージ・カックル

アメリカには「Save the great white shark」（グレート・ホワイト・シャークを守ろう）という、車のバンパー・ステッカーがある。グレート・ホワイト・シャークというのは、映画『ジョーズ』に出てきた人食いザメのことだ。

そもそも、このステッカーができたいきさつは、こうだ。あるサーファーがモントレイというビーチでサメに襲われ、かじられたサーフボードしか岸に上がらなかったことがあった。それを受けて、正義感の強いサーファーたちがサメ殺しに立ち上がったが、今度はそれに対してモントレイの水族館が、このステッカーを作ったというわけだ。いくら人食いザメでも、いなくなってしまうと海の生態が狂ってしまう。

サンフランシスコ周辺の海には、アメリカで最も人食いザメがあらわれるレッド・トライアングルというエリアがある。サンフランシスコとモントレイ、フェラロン島を結ぶ三角地帯だ。サメの全長は平均5メートルある。こちらに近づいてくるときは、ヒレを出して向こうからやってくるイメージだが、人食いザメはそうではない。人知れずやってきて、獲物の下でクルクル回りはじめる。噛むといったん口から放し、再び下で旋回しながら獲物が死ぬのを待つ。獲物といっても、アザラシやトドがほとんどで、人は間違えられて襲われるだけだという。サメから見れば、ショートボードから足が出るそのアウトラインが、アザラシに似ているらしいのだ。

サメが獲物を襲うときは、口から歯だけが前へニョキッと出てくる。同時に獲物の反撃から目を守るために、下まぶたから皮膚が上がってきて、目は真っ白になる。だから、獲物をくわえたときには実際に目が見えていない。想像するだけでも、恐ろしい光景だ。

だが、サーファーが助かる例が多い。ウエットスーツが功を奏して噛まれた肉が散らばらず、そこにほかの人が助けにやってくれば、そのまま岸へと戻ることができる。グレート・ホワイト・シャークは、最初に襲った獲物が死ぬのを待つだけで、ほかに人が現れても襲われることはないということらしい。

僕は以前、そのステッカーを後ろのバンパーに貼っていたが、海に入るときは後ろを海に向けて車を止めていた。サメから見えるように。つまり、僕の気持ち

をサメにわかってもらいたかったからだ。僕はサメを守ろうとしているのだから、君たちも僕を襲っちゃだめだよってね。

映画『ジョーズ3』を見た次の朝、海へ行ったら砂浜に頭のないアザラシが転がっていたことがある。海にサメがいる証拠だ。サーファーの友達のひとは海に入っていて、隣でアザラシがいきなり飛び上がり、次の瞬間、海が真っ赤に染まったのを見て一目散に海から上がってきた。

ちなみにサンフランシスコではアジアの漁師がヒレ欲しさに、海上でサメのヒレだけを切り取り、また逃がしているという話した。もちろん、フカヒレ・スープのためで、相当な高値になるからだろう。自分の欲だけで動く人々は、いつしかつけが回ってくるだろう。

そもそもサメっていうのは、僕らより先に海にいるものだ。時々、喰われてしまうのは仕方ない。海にはそう思って入っていたほうがいいと僕は思っている。もちろん、僕は人食いザメに襲われたくはないから、せめて自分ではフカヒレ・スープを食べないと心に決めている。